

令和3年度 北海道大学教育学部 第3年次編入学及び転部試験

試験問題（総合問題）

9時00分～10時30分

解答上の注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
- 2 問題は、（英語）と（論文）の2つがある。両方の問題のすべての問いに解答すること。
- 3 問題紙は、この頁を含めて9枚ある。
- 4 解答用紙は、2枚ある。
- 5 解答用紙は、2枚とも必ず提出すること。
- 6 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
- 7 下書き用紙は別途配付されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
- 8 問題紙及び下書き用紙は、すべて持ち帰ること。

以上

(英訳)

問題 1

「文章 1」は、“The Place of Vocational Aims in Education” (教育における職業的目標の位置) という節の一部である。この文章を読んで、次の問いのすべてに英語で答えなさい。

[出典 John Dewey, *Democracy and education* (Dover, 2004), pp. 298-299;

originally published by The Macmillan Company in 1916.]

問 1. 下線部 A の “in this way” (この方法で) が「どんな方法で」なのかを具体的に示している箇所として最も適切なもの (ある一文の一部) を、文章の中から抜き書きしなさい。

問 2. 下線部 B は、“the discovery of capacity and aptitude” (能力と適性の発見) に関する著者の見解を示している。それに対して、将来の適職の発見に関する慣例的な見方は、どんな見方か。慣例的な見方の特徴を最もよく示している箇所 (ある一文の一部) を、文章の中から抜き書きしなさい。

問 3. 下線部 C が示している事態は、望ましくないものとして描かれている。それでは、“educators” (教育者) はどうすればよいと著者は述べているのか。このことを示している箇所として最も適切なもの (ある一文の一部) を、文章の中から抜き書きしなさい。

文章 1

(論文)

問題 2

「文章 2」は、キャリア教育に関する章の一部である。この文章を読んで、次の問いに日本語で答えなさい。

[出典 児美川孝一郎『まず教育論から変えよう 5つの論争にみる、教育語りの落とし穴』(太郎次郎社エディタス、2015年)、pp. 194-195, 199-201, 206-210.]

(出題の都合上、文章中に(中略)と明示してある以外にも、削除した文言がある。)

問. 「文章 2」の内容から、本来のキャリア教育とはどんなものであるべきだと著者は結論づけていると推定するか。「キャリア教育をめぐる言説の座標軸」のタテ軸に関するかぎり、推定される結論を 200 字以内にまとめて書きなさい。

ただし、次のキーワードをすべて用いて述べること。

社会、職業、自己、やりたいこと

注. 象限(しょうげん) : 平面を座標軸で 4 つに区切ったときの、それぞれの領域

